www.minolta.com

Capios 115s

はじめに

基本撮影

こんなこともできます

付録

J 使用説明書

目次

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

 警告 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです(左図の場合は発熱注意)。

⚠ 警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- 指定された電池以外は使わないでください。
- 電池の極性(＋／－)を逆に入れないでください。
- 表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- 電池の充電、ショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- 万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直に医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると、発熱・破裂・発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠ 警告

幼児の口に入るような小さな電池や付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直に医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因になります。

フラッシュを人の目に向けて発光しないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車など運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

⚠ 警告

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、火傷に十分注意しながらすみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
使用を続けると感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
しばらく操作しないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

	ボディ底面のこのマーク(CEマーキング)は、本製品が電波障害に関するEU(欧州連合)の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne **(ヨーロッパ認定)の頭文字です。**

はじめに

はじめに

お買い上げありがとうございます。Capios115sは携帯性に優れたコンパクトボディに3.1倍ズームレンズを内蔵しているコンパクトカメラです。

本文中のマークについて

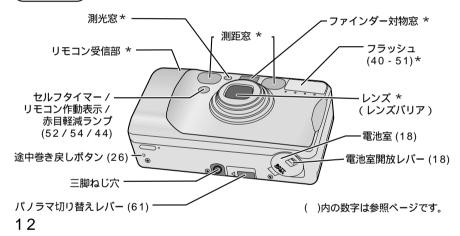
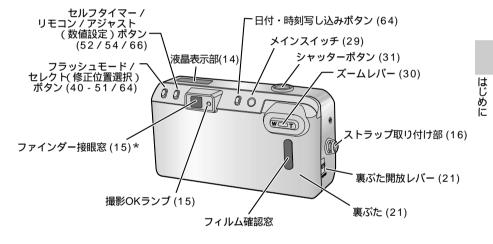
 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書かれています。

 カメラの基本操作に加え知っておいていただきたい事項が書かれています。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。またお読みになったあとは、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

各部名称

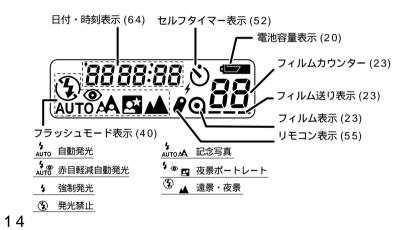
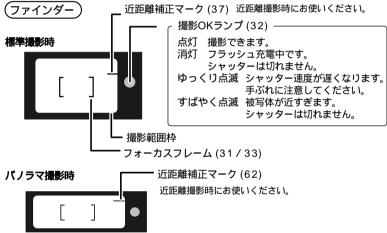
カメラボディ　＊のついたところは触らないでください。

（　）内の数字は参照ページです。

液晶表示部 説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー

標準撮影時

パノラマ撮影時

近距離補正マーク (62)
近距離撮影時にお使いください。

ストラップの取り付け方

図のようにして、ストラップを取り付けます。

●ストラップの持ち手の長さを調節することができます。

ストラップの突起部分の使い方

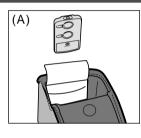
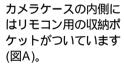
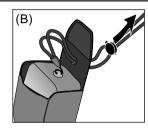
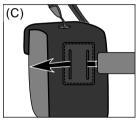
突起部分で途中巻き戻しボタンを押すことができます (p.26)。

ケースの使い方

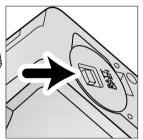
(A)

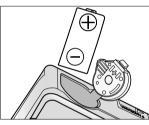
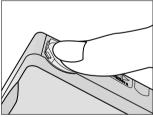
(B)

(C)

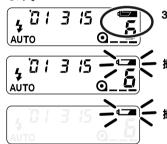
カメラケースの内側にはリモコン用の収納ポケットがついています(図A)。

ストラップはケースの穴を通して使います(図B)。

ケースはベルトに通して使うこともできます(図C)。

電池を入れます　（お買い上げの際には、電池はすでに入っています）

3Vリチウム電池CR123AまたはDL123Aを1個使用します。

1 メインスイッチを押して電源を切った後、電池室のふたを開けます。

● 電池を交換した後や入れ直しした後は、液晶表示部に ----- が点滅します。正しい日付・時刻を設定しなおしてください。このままの状態では日付・時刻は写し込まれません(p.64)。

2 電池室内の＋/－表示にしたがって電池を入れます。

3 電池室のふたを元通りに閉めます。

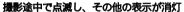
電池容量の確認

電源を入れたときに自動的に電池容量がチェックされ、液晶表示部にマークが現れます。

3秒間点灯（約3秒後に消灯します）

●電池容量は十分です。

撮影途中で点滅

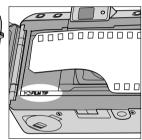
●新しい電池をご用意ください。この状態でも撮影できます。

撮影途中で点滅し、その他の表示が消灯

●電池を交換してください。シャッターは切れず撮影できません。

- 電源を入れても何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。電池の向きが正しくても何も表示されないときは、電池を交換してください。
- お買い上げのときに入っている電池は、出荷時に入れたものですので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。

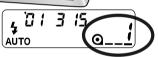
フィルムを入れます

1 裏ぶた開放レバーをカチッと音がするまで押し下げて、裏ぶたを開けます。

- このカメラにフィルムを入れると、不用意に裏ぶたが開かないように裏ぶた開放レバーがロックされます (セーフティロック機構)。

2 **フィルムの先端を｜←FILM TIPマークの左端にあわせて入れます。**

3 **裏ぶたをきっちり閉めます。**

- フィルムが自動的に巻き上げられ、液晶表示部に ⊙---1 が出ます。
- -0 が点滅しているときはフィルムが正しく巻き上げられていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

- フィルムの先端をカメラに入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎたときは、出た部分をゆっくり押し戻してください。
- フィルムが浮き上がらないようにセットしてください。

- ポラロイドインスタントリバーサルフィルムは、巻き上げがうまくできないことがありますので使用しないでください。
- フィルムの出し入れは直射日光を避けて行ってください。

- 暗いところや望遠での撮影が多い場合は、ISO400以上の高感度フィルムを使われることをおすすめします。

フィルムを取り出します

最後のコマまで撮り終えるとズームレンズが収納され、フィルムは自動的に巻き戻されます。

1 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり ◙ が点滅したら、巻き戻しは終了です。

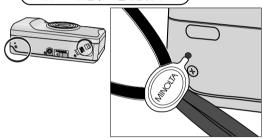
●巻き戻し中は、フィルムカンターの数字が減っていきます。

● 巻き戻し中はセーフティロックが解除されますので、裏ぶたを開けないようご注意ください。

● すべての表示が点滅して巻き戻しが途中で止まったときは、一度電池を抜いて入れ直してください。
● 通常の巻き戻し中に、途中巻き戻しボタンをもう1度押すと、巻き戻しの音が小さく (サイレント巻き戻し) なります (p.27)。

2 裏ぶた開放レバーを押し下げ、ふたを開けてフィルムを取り出します。

● フィルムの規定枚数以上撮影した場合(例えば、24枚撮りフィルムを使用しているときに25枚以上撮影すること)、最後のコマは現像処理でカットされたり、日付・時刻が正しく写し込まれない場合があります。確実に撮影するには、規定枚数を撮影された後、フィルムを途中巻き戻しすることをおすすめします。

フィルムを途中で巻き戻すには

ストラップの突起でボディ底面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

- ボタンを強く押し込んだり、シャープペンシルやボールペン等先のとがったもので押すと故障の原因になります。

サイレント巻き戻しを行うには

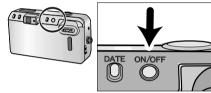
このカメラには巻き戻しの音が小さくなるサイレント巻き戻しが搭載されています。結婚式場のような静かなところでも安心して巻き戻しができます。

巻き戻し中に、途中巻き戻しボタンを押します。

- 途中巻き戻しボタンを押すごとにサイレント巻き戻しと通常巻き戻しが切り替わります。
- サイレント巻き戻し中は、液晶表示部にSILEntが点灯します。

- サイレント巻き戻しは、通常の巻き戻しよりも巻き戻し時間が長くなります。
- 次の巻き戻しは、前回に設定されたモード(通常／サイレント)がそのまま保持されています。

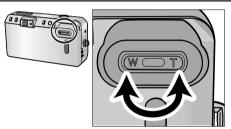
基本撮影

全自動で撮影しましょう

1 メインスイッチを押して、電源を入れます。

● 約8分以上何も操作しない時は、節電のため自動的に電源が切れ、レンズが本体内に収納されます。

2 カメラをしっかり構えます。

● 写真がぶれないように、脇を締め、両手でしっかりと構えてください。
● 縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。

!
● ズームレンズの伸びた部分を持たないでください。ピントがずれることがあります。
● ズームレンズの動きをさまたげないでください。
● レンズやフラッシュ、測距窓など、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。

3 **ファインダーをのぞきながら、ズームレバーで撮りたいものの大きさを決めます。**

Tのレバー　望遠（115mm側）
より大きく写ります。人物や花のアップにお使いください。

Wのレバー　広角（37.5mm側）
より広い範囲のものが写ります。風景や集合写真にお使いください。

4 **ピントを合わせたいものに、[　　] を重ねてシャッターを半押しします。**

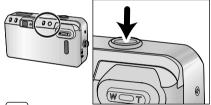
- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。ここまで押すことを半押しといいます。

シャッターボタンの半押し

- このカメラはピントを合わせる範囲が広いマルチビームAFを搭載していますが、より確実にピントを合わせたい場合は、「撮りたいものが画面中央にないとき」の操作方法をおすすめします (p.33)。

撮影OKランプ

シャッターボタンを半押ししたときに、撮影OKランプは以下のようになります。

点灯	撮影できます。
消灯	フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。
ゆっくり点滅	シャッター速度が遅くなります。手ぶれに注意してください。
すばやく点滅	被写体が近すぎます。シャッターが切れません。

5 撮影OKランプが点灯したら、そのままシャッターボタンを静かに押し込みます。

●撮影が終わったあと、再びメインスイッチを押すとカメラの電源が切れます。

● 室内など暗いときには、フラッシュが自動的に発光します。

撮りたいものが画面中央にないときは

撮りたいもの（ピントの合わせたいもの）が画面中央にないとき、そのまま撮影すると、左のように背景にピントの合った写真になってしまいます。そのような場合にはこの操作方法をお使いください。

1 ピントを合わせたいものに［　　］を重ねます。

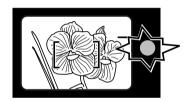
撮りたいものが画面中央にないときは

2 そのままの状態でシャッターボタンを半押しします。

● 撮影OKランプが点灯し、[　　] を重ねたものにピントが固定されます。

3 シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に変え、シャッターボタンをそのまま押し込みます。

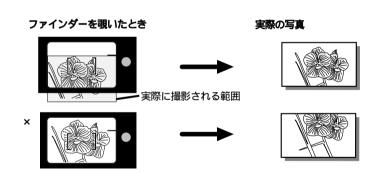
近くのものを撮るときは

焦点距離115mm(望遠)では55cm、それ以外の焦点距離では60cmまで被写体に近づいて撮影できます。

この距離よりも撮りたいものに近づきすぎると、ピントは合わず、撮影OKランプがすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。

● 写したいものが極端にカメラに近い場合、撮影OKランプが点灯またはゆっくり点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合っていません。

● パノラマ撮影では、焦点距離115mm(望遠)では1.2m、37.5mm(広角)では60cmまで被写体に近づいて撮影できます(p.62)。

近くのものを撮るときは

1.5m未満にあるものを撮るときは、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にずれが生じます。その場合には近距離補正マークをお使いください(p.37)。

近距離補正マークの使い方

1 **ピントを合わせたいものに［　　］を重ねてシャッターボタンを半押しします。**

2 **シャッターボタンを半押ししたまま、写したい範囲が近距離補正マークより下にくるよう、カメラを少し上に向けます。**

●フィルムには近距離補正マークの下側（グレーの範囲）にあるものが写ります。

- 撮影距離が短いほど、また望遠側で撮影するほど、ずれの量は多くなります。最大にずれた場合、近距離補正マークの位置が写真の上端になります。
- パノラマ撮影時は62ページを参照してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラでは、以下のような撮影条件ではオートフォーカス機構が働きにくい場合があります。

- フォーカスフレーム周辺に非常に明るい光や強い反射がある場合。
- 自動車のボディや水面など光を反射しやすいものを写すとき。
- 髪の毛など光を反射しにくいものを写すとき。
- ガラス越しに撮影するとき。
- 花火や炎など、実体のないものを写すとき。

このような場合には「撮りたいものが画面中央にないとき」の方法(p.33)を参照して以下のようにお使いください。

1 撮りたいものとほぼ同じ距離で同じ明るさの別のものに、[　　] を重ねます。

2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントが一時的に固定されます。

3 半押ししたまま撮りたい構図に変えて撮影します。

こんなこともできます

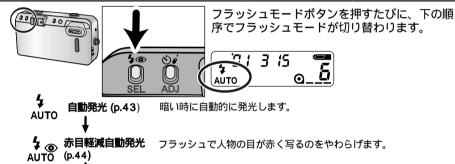
フラッシュモードボタンを活用しましょう

フラッシュモードボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

自動発光 (p.43) 暗い時に自動的に発光します。

↓

赤目軽減自動発光 (p.44) フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。

↓

強制発光 (p.46) フラッシュは必ず発光します。逆光の時や顔にある影をやわらげたい時、蛍光灯のついた屋内などでお使いください。

↓

発光禁止 (p.47) フラッシュは発光しません。美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されている場所でお使いください。

↓

記念写真 (p.48) 背景と人物のどちらもきれいに撮りたいときに使います。

↓

夜景ポートレート (p.50) 夜景を背景に人物を撮影するときに使います。

↓

遠景・夜景 (p.51) 遠くのものや、夕景や夜景のみを撮影するときに使います。

- 自動発光と赤目軽減自動発光の設定は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってもそのまま保持されています。
- 強制発光、発光禁止、記念写真、夜景ポートレート、遠景・夜景の設定は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ると解除されます。再びメインスイッチを押してカメラの電源を入れると、自動発光または赤目軽減自動発光のうち前回設定したほうに戻ります。

フラッシュ光の届く範囲

フラッシュ光の届く範囲には限度があります。下表の範囲内で撮影してください。

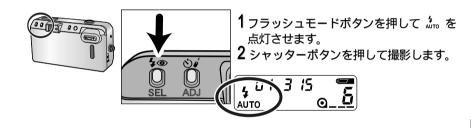
焦点距離 / フィルム感度	37.5mm	115mm
ISO100	0.6-5.1m	0.55-2.1m
ISO400	0.6-10.2m	0.55-4.2m

ネガカラーフィルム使用時

AUTO 暗いときに自動的に発光にします

被写体の明るさにより、フラッシュが自動的に発光します(自動発光)。

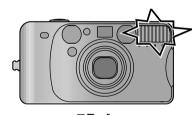
1 フラッシュモードボタンを押して AUTO を点灯させます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

- 逆光時には自動発光しません。より美しい写真を撮るためには強制発光 (p.46) をおすすめします。
- 撮影ランプが消灯している場合はフラッシュ充電中です。点灯に変わるまでしばらくお待ちください(フラッシュ充電時間は、新品電池で約0.5～6.5秒です)。

⚡AUTO👁 フラッシュで目が赤く写るのをやわらげるには

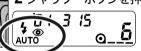
暗いところで人物を撮影したときに目が赤く写るのをやわらげます（赤目軽減自動発光)。

シャッターが切れる前に、目が赤く写るのをやわらげるために赤目軽減ランプが3回点滅します。

赤目軽減ランプ

フラッシュ

1 **フラッシュモードボタンを押して ⚡AUTO👁 を点灯させます。**

2 **シャッターボタンを押して撮影します。**

こんなこともできます

- シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間（約1.5秒間）は、カメラを動かしたり、写される人が動かないよう注意してください。

⚡ フラッシュを必ず発光させたいときは

フラッシュが必ず光ります(強制発光)。帽子などで人物の顔にできている影をやわらげたり、逆光のときや蛍光灯のついた明るい室内でお使いになるとより美しい写真を撮ることができます。

1 **フラッシュモードボタンを押して ⚡ を点灯させます。**
2 **シャッターボタンを押して撮影します。**

フラッシュを発光させたくないときは

フラッシュは発光しません(発光禁止)。美術館や博物館など、フラッシュの使用が禁止されている場所で撮影するときにお使いください。

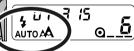
1 **フラッシュモードボタンを押して (発光禁止マーク) を点灯させます。**
2 **シャッターボタンを押して撮影します。**

! ● 暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長約10秒)、写真がぶれやすくなります。撮影OKランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚にカメラを固定して撮影してください。

AUTO 背景と人物のどちらもきれいに撮りたいときは

人物だけでなく背景もきれいに写すことができます。風景を背景にして人物を撮るなど、記念写真の撮影におすすめします (記念写真)。

1 **フラッシュモードボタンを押して AUTO を点灯させます。**

2 **シャッターボタンを押して撮影します。**

- フラッシュは暗いときに自動的に発光します。
- 前回に赤目軽減自動発光の設定で撮影した場合は AUTO が点灯し、フラッシュが発光する撮影の前に赤目軽減ランプが3回点滅します。
- 背景の写り方は焦点距離や明るさによって変わります。明るい屋外のほうがより効果があります。
- 暗いときには夜景ポートレート(p.5 0)での撮影をおすすめします。

夜景を背景に人物を撮影するときは

背景の夜景も人物も両方写すことができます。シャッター速度が遅くなり、フラッシュが発光します(夜景ポートレート)。

1 フラッシュモードボタンを押して を点灯させます。
2 シャッターボタンを押して撮影します。

● シャッター速度が遅くなりますので（最長1秒)、三脚をお使いのうえ写される人に声をかけて動かないように気をつけてもらうことをおすすめします。

● フラッシュは必ず発光します。またシャッターが切れる前に赤目軽減ランプが3回点滅します。

風景・夜景を撮影するときは

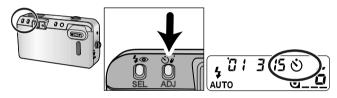
風景や夜景を撮影するときなどに、ピントを遠くに合わせます。フラッシュは発光しません。またガラス越しの風景でもピントがきれいにあった写真が撮れます(遠景・夜景)。

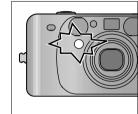
1 フラッシュモードボタンを押して を点灯させます。
2 シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影OKランプがゆっくり点滅したときには、シャッター速度が遅くなります。(最長10秒) 写真がぶれやすくなりますので、三脚にカメラを固定して撮影してください。

セルフタイマー撮影ができます

撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念撮影などに便利です。

1 セルフタイマー／リモコン撮影選択ボタンを押し、 を点灯させます。

2 撮りたいものに［　　］を重ねます。

- カメラを三脚に取り付けてから操作してください。
- 撮りたいものが画面中央にない場合は33ページの操作方法をご利用ください。

3 シャッターボタンを押します。

- 約10秒後にシャッターが切れます。
- カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプと液晶表示部の が点滅して、カウントダウンをお知らせします。シャッターの切れる直前はカメラ前面のランプの点滅が早くなります。

- カメラの正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。

- セルフタイマー撮影を中止したいときは、セルフタイマー／リモコン撮影選択ボタンを押すか、メインスイッチを押して電源を切ってください。
- セルフタイマー撮影後は通常撮影に戻ります。

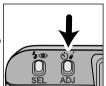
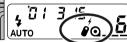
リモコン撮影ができます

付属のリモコンを使用すると、カメラから離れてシャッターを切ることができます。
撮影者も一緒に写りたいときや、カメラブレを防ぐのにお使いください。

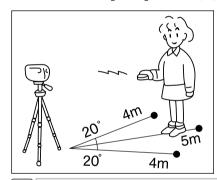
リモコン(IRリモコンRC-3)の使い方

信号送信部

2秒後撮影ボタン 約2秒後にシャッターが切れます。撮影者は2秒の間にリモコンを隠して写真に写ることができます。

撮影ボタン すぐにシャッターが切れます。シャッターボタンを押す振動によってカメラがぶれることを防いだり、シャッターを押すタイミングが重要なシーンでお使いください。

1 **セルフタイマー／リモコン撮影選択ボタンを押して、 を点灯させます。**

- 逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所ではリモコン撮影の可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

- カメラを三脚に取り付けてから操作してください。
- 約8分以上カメラやリモコンを操作しないと、節電のために自動的に電源が切れます。

2 撮りたいものに［　］を重ねて、構図を決めます。

3 図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラに向け、2秒後撮影ボタンか撮影ボタンを押します。

2秒後撮影ボタン

セルフタイマー／リモコン作動表示ランプが数回点滅

撮影ボタン

セルフタイマー／リモコン作動表示ランプが1回点滅

● 撮影後もカメラはリモコン撮影の設定のままです。解除するにはセルフタイマー／リモコン撮影選択ボタンを押して を消してください。

撮りたいものが画面中央にないときは

1 リモコン撮影モードにします。

2 撮りたいものに［　］を重ねてシャッターボタンを半押しします。

●撮影OKランプが点灯またはゆっくりと点滅し、ピントを固定します。

3 シャッターボタンから指を離して、撮りたい構図に変えます。

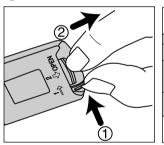
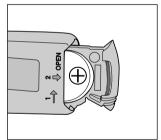
4 リモコンのボタンを押して撮影します。

● オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときには、撮りたいものと同じ距離で同じ明るさの別のものにピントを固定してから、撮りたい構図に変えてください。

- 撮影後も撮影OKランプは点灯したままで、ピント位置が固定されていることをお知らせします。同じ距離のものなら続けて撮影できます。
- シャッターボタンの半押しで何度もピントを合わせなおすことができます。
- ピント位置の固定をやめたいときは、セルフタイマー／リモコン撮影選択ボタンでリモコンモードを再設定するかズームレバーを操作してください。

リモコン用電池の交換 使用電池：リチウム電池CR2032×1個

リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です（お買い上げのときの電池はそれより消耗が早くなることがあります）。

1 ① **の方向に押しながら、電池室を** ② **の方向に引き出します。**

2 古い電池を取り出し、+側を上にして新しい電池を入れます。

3 電池室を元どおり確実にはめ込みます。

● コイン型電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。

パノラマ撮影ができます

このカメラはパノラマ撮影に切り替えることができます。

1 **カメラ底面のパノラマ切り替えレバーを矢印方向に切り替えます。**

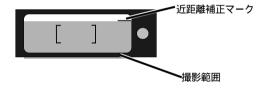
● ファインダーがパノラマ用に切り替わります。

● 逆方向に切り替えると、パノラマ設定は解除され、通常の撮影に戻ります。

2 **シャッターボタンを押して撮影します。**

● 三脚を利用してパノラマ撮影する場合、パノラマ切り替えレバーを操作してから、カメラを三脚に取り付けてください。

近くのものを撮るときは

● パノラマ撮影では、焦点距離115mm(望遠)では1.2m、37.5mm(広角)では60cmまで被写体に近づいて撮影できます(p.61)。被写体が近すぎる場合はピントが合わず、撮影OKランプがすばやく点滅し、シャッターは切れません。
● 2m未満の距離にあるものを撮るときは下図のように撮影範囲全体が下へずれます。近距離補正マークをお使いください(p.35)。

パノラマ撮影したフィルム

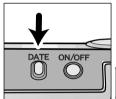
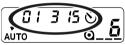
図ようにコマの上下がカットされた状態になっています。
● パノラマ撮影しても、フィルムの撮影枚数はパノラマ撮影しない場合と変わりません。

パノラマ撮影の現像・プリント

パノラマ撮影されたフィルムであることをお店に伝えてください。
● 通常サイズで現像・プリントに出すと、上下に黒い帯が写し込まれたり、パノラマ撮影したコマだけプリントされないことがあります。
● パノラマ写真のプリントサイズは89mm×254mmです。

● 実際にフィルムに写った画面よりもプリントされる範囲がやや狭くなる場合がありますので、構図をきめるときは画面の周辺部に少し余裕を持たせてください。

日付・時刻を入れて撮影できます

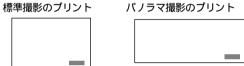
日付や時刻を写真に写し込むことができます。

1 メインスイッチを押してカメラの電源を入れ、日付・時刻写し込みボタンを押し印字される内容を選びます。

●日付・時刻写し込みボタンを押すごとに、液晶表示部の表示が次のように切り替わります。

01 3 15 → 15 8:30 → - - - - - -

年月日　　日時分　　写し込みなし

- 日付・時刻や - - - - - が点滅しているときは、写し込まれません。日付と時刻を再設定してください (p.66)。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

●下図の▬の位置に写し込まれます。

- このカメラには2099年までの日付が記憶されています。

- 写し込み位置に、白色／黄色／オレンジ色などの明るい色のものがあると、写し込んだ文字が読みにくくなります。
- 写し込みは、次のコマに巻き上げるときに行われるので、最後のコマでは正しく写し込めないことがあります。

日付・時刻の修正 日付・時刻の数値の修正にお使いください。

1 **メインスイッチを押して、カメラの電源を切ります。**

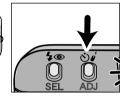
2 **日付・時刻写し込みボタンを押します。**

● 日付・時刻の表示が点灯します。

'01 3 15

3 **セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。**

●「年」の数字が点滅します。

● カメラの電源が入っていると、日付・時刻の修正はできません。

4 **アジャスト(数値設定)ボタンを押して、点滅している数値を修正します。**

● 押し続けると、数値が早送りされます。

5 **他にも修正箇所(月、日、時、分)があるときは3と4の操作を繰り返します。**

● セレクトボタンを押すごとに、月→日→時→分の順で点滅箇所が変わります。

'02 4 10

6 **修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクト(修正位置選択)ボタンを何回か押します。**

● 約5秒間液晶表示部に設定された日付・時刻が表示されます。5秒後に表示が消え、修正は完了です。

年月日の並び変え「年月日」の順序を変えることができます。変更した並び順は電池を交換した後でも変わりません。

1 メインスイッチを押しカメラの電源を切ります。

2 日付・時刻写し込みボタンを押します。

●「年月日」が表示されます。

'01 3 15

3 セレクト(修正位置選択)ボタンを約2秒間押し続けます。

●「年月日」すべてが点滅します。

'01 3 15

● カメラの電源が入っていると、年月日の並び変えはできません。

4 アジャスト(数値設定)ボタンを押して、年月日の並び順を選びます。

●ボタンを押すごとに、年月日の並び順が以下のように切り替わります。

'01 3 15 → 3 15'01 → 15 3'01

年月日 → 月日年 → 日月年

3 15'01

5 希望の並び順を選んだら、セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

●約5秒間液晶表示部に並べ変えた「年月日」が点灯します。5秒後に表示が消え、設定は完了です。

付録

取り扱い上の注意

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は−10 〜 40℃です。
- 直射日光下の車内など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
- 電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。
- 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。

その他の注意

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 電池の容量が十分あるのにカメラが動かなくなったとき、またはフィルムが入ったままシャッターが切れず、巻き戻しもできない場合、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取り出そうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げのお店または最寄りの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

手入れのしかた

- カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアブラシで軽く吹き飛ばしてください。
- 測距窓が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後5年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

こんなときは

症状	原因	対策	ページ
シャッターが切れない。	電池の入れ方が間違っている。	電池を正しく入れ直す。	18
	フィルムが正しく装填されていない。	フィルムを入れ直す。	21
	フラッシュが充電中。	撮影OKランプが点灯してから撮影する。	32
	被写体に近づき過ぎている。	撮影OKランプが点灯する距離で撮影する。	35
写真がブレている。	暗い所でフラッシュを使わなかたり、夜景ポートレートで撮影したので手ブレをおこした。	シャッタースピードが遅くなるときは三脚を使用する。	47
写真がボケている	撮影時、測距窓に指がかかっていた。	測距窓に指などをかけない。	29
	レンズや測距窓が汚れていた。	レンズや測距窓をきれいにする。	
	被写体が［　］に入ってなかった。	ピントを合わせたいものを正しく［　］に入れて撮影する、	33

こんなときは

症状	原因	対策	ページ
写真がぼけている	撮りたい物に極端に近づいたので、撮影OKランプが点灯しシャッターが切れたがピントが合わなかた。	ピントが合う距離まで離れて撮影する。	35
明るいのにフラッシュが発光する。	手ぶれ防止のためフラッシュが発光することがある。	ISO400などの高感度フィルムを使用する。	23
フラッシュが発光しない。	自動発光では、十分明るい場所ではフラッシュは光らない。	必要時、強制発光モードを選択する。	46
フラッシュを使用したのに写真が暗い。	フラッシュ光の届かない距離で撮影した。	フラッシュ光の届く距離内で撮影する。	42
	フラッシュの前に指をかけていた。	撮影時はフラッシュの前に指などをかけない。	29
リモコンによる操作ができない。	逆光時など、極端に明るい場所で撮影しようとしている。	カメラの向きを変えるか、セルフタイマーで撮影する。	52

症状	原因	対策	ページ
日付表示が点滅している（日付が写っていない）	電池交換後、日付を設定していなかった。	日付・時刻を設定する。	66
日付表示を修正できない。	カメラの電源が入ったままで修正の操作をしようとしている。	カメラの電源を切って、日付・時刻写し込みボタンを押す。	66
裏ぶたが開かない。	フィルムが入ったままになっている。	フィルムを巻き戻す。	24
裏ぶたが開かず、フィルムが取り出せない。	フィルムが巻き戻されていない。	途中巻き戻しボタンを押す。	26
	フィルムの巻き戻しに失敗した。	電池を入れ直す。	18
フィルムは入っておらず裏ぶたが開かない。	セーフティロックがかかったままになっている。	カメラの電源を入れ直す。	21
電池の容量が十分あるのに動かなくなった。 液晶表示部の表示がすべて点滅する。	電池を入れ直してみてください。繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、カメラをお買い上げのお店または最寄りの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。		18

付録

主な性能

カメラタイプ	35mmレンズシャッターカメラ
レンズ	ミノルタレンズ37.5-115㎜/F5.4-10.9
測光方式	中央重点測光
シャッター速度	10〜1/390秒
露出制御範囲（ISO100）	37.5mm時：Ev3〜16 115mm時：Ev3.7〜16
使用可能フィルム感度	DXコードにより自動設定（ISO 25〜3200）
ファインダー倍率	0.4〜1.09倍
視野率	86%（3.0mの被写体に対して）
フラッシュ充電時間	約6.5秒
電源	カメラ本体：3VリチウムCR123AまたはDL123A リモコン用：リチウム電池CR2032×1個
撮影可能本数	約12本（新品電池で電池消耗までに撮影できる本数。24枚撮りフィルム、フラッシュ50%使用）
大きさ	カメラ本体：112（幅）×60（高さ）×39（奥行）㎜ リモコン：31.5（幅）×66（高さ）×6（厚さ）㎜
質量	カメラ本体：205g（電池別） リモコン：12g（リモコン用電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。
●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

付録

ミノルタ株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-3356-9111（携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。）
FAX　03-3356-6303
受付時間　10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日定休）

ホームページでも弊社製品に関する情報を提供しております。 http://www.photo.minolta.co.jp/

9223-2470-61　P-F208